

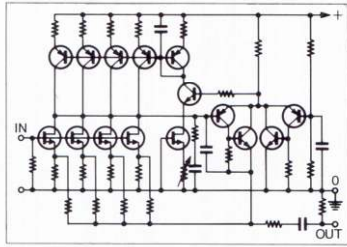
MC head amp

すでにMCカートリッジ用にヘッドアンプやトランスをお持ちのマニアのために、ヘッドアンプユニットは別売オプション(IHA-Y)としました。回路は初段にPNPローノイズ・アクティブ・ロードを負荷とする高

Gm FETを4組パラレルに接続し、それをインバーテッド・ダーリントン回路で受けた2段増幅構成です。また、増幅部の電流変化分を逆相電流で打ち消して電源から供給される電流を一定に保つ「カレント・バランス・サーキット」を設けMCカートリッジの微小な出力電圧にノイズを減らすために流している大量の電流の変化によってうける影響を防いでいます。もちろん内蔵形となりますから電源はスーパーシャントレギュレーターにより供給されます。独立型のヘッドアンプ等ではピンピンコードで配線しなければ

なりません。この音質への影響を全く受けないことも大きなメリットのひとつです。このヘッドアンプを内蔵した場合、MAG1がMC入力となりMCの文字がインジケータ

に浮き出します。いわゆる独立型のヘッドアンプと比較しても多くのメリットをもちいると申せましょう。



construction

CA-Yは音の純度を可能な限り保つためにトーンコントロールやモードスイッチ、ラウドネス等の現時点では音質を劣化させるといわざるを得ない附属機能を一切排しています。さらに音質を少しでも損なわないためにまだあまり一般的ではない機能を採用。そのひとつがRECORDING OUT ON-OFFスイッチです。これにより録音しない時にテープデッキとの間のシールド線によってプリアンプに容量負荷がかかり音質へ悪影響を及ぼすことから完全に断ち切ることが

できます。またMAG入力は2つありMAG1はインピーダンスが固定(47K Ω 、MC用ヘッドアンプ内蔵の場合は100 Ω)、MAG2は可変(30K Ω ~80K Ω)となっており使用するカートリッジの最適値に調整することができます。またCA-Yではバランスコントロールに新回路を採用。センター位置では信

号が抵抗体を通らない方式です。このため音質劣化を引き起こさないわけです。なおこのバランスコントロールの可変範囲は各ch、0~-6dBです。

parts

例えば、スピーカーコードによって音が変わる、ということもはや常識となっていますが、こういった配線コードをいろいろ取り替えて音を少しでも良くしようという努力はユーザーのひとつの楽しみということもできます。しかしアンプの中身となるとメーカーの良心とかポリシーの問題となります。スピーカーコードによる音の変化が示唆することは、アンプ内部の使用パーツの音への影響の大きさです。空気コンデンサー(削り出しの真鍮に銀メッキを施したものをはじめ、スチロール/ポリプロピレン/マイラコンデンサー、オーディオ用低インピーダンスケミコン、そして抵抗には金属皮膜抵抗、ポリウムとポリムランスコントロールには音の良い低雑音低歪CPポリウムを採用。基板は300 μ 厚無酸素銅箔のガラスエポキシ製、無酸素銅線に金メッキを施したジャンパー線等による配線、等と細部にわたって測定とヒアリングによって音質の優れたパーツが選ばれ、使用されています。——CA-Yは決して単なるCA-Xのコストダウンモデルではありません。



design

オーディオアンプはその音をイメージさせるようなデザインでありたいと思います。そして見やすさとわかりやすさと操作性を兼ねそなえ、日々の生活の中で飽きのこないものでなければなりません。CA-Yでは操作性と内部レイアウトの両面からデザインを探り、信号が右から左へ流れるように設定し、各スイッチ、ツマミの位置とその大きさや形を決定しました。また動作中のプッシュスイッチポジションが美しいグリーンの文字で表示されるインジケータを設置。これはリスニングルームの明るさに応じて適度な照度で自動的に調光されるようになっています。

epilogue

アンプづくりには設計する人間の思想や音楽観が如実に反映されると思います。スタックスでは音の純度、透明感を最も大切に、構成はシンプル、パーツは最高、という原則に徹しています。またひとつ音楽が美しく鮮やかに息づくプリアンプの誕生です。●●● CA-Y

思想が、 品を生みだしました。

